

古い土の再生方法

一度使った用土は、病原菌や害虫がいたり、土の性質が悪くなっていますので、同じ土で草花や作物を作り続けることは避けなければいけません。庭の花壇や菜園、プランターも年に一度は土壌改良しましょう。



土壌を改良する

●植物が取り除かれている場合(一年草の花壇など)

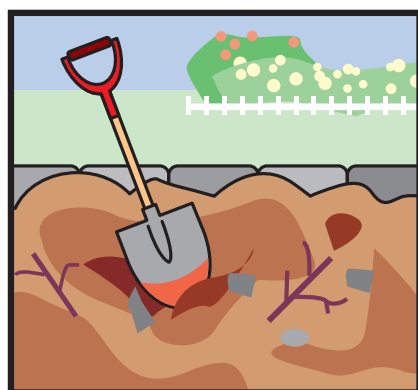
植栽する場所全体を深さ30cm以上掘り返し、土の中に空気を取り込むと同時に、寒気にさらすことで土中を消毒することを「天地返し」といいます。「天地返し」を行うことで、フカフカの土を作るベースになります。

さらに、土の酸度を調整するために石灰などを

まいたり、腐葉土や堆肥などを混ぜ込んで地力をアップさせます。また、鉢植えの場合は鉢も水洗いし、天日で干してください。植え付けの2週間前までにおこなってください。

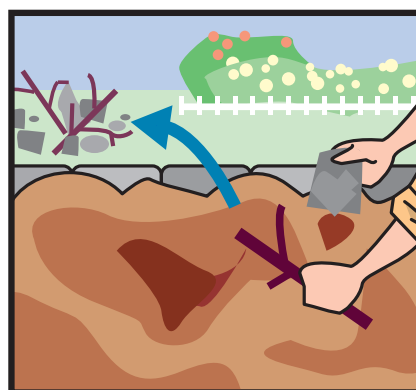
※酸度を調整するための石灰等はまいてから日を置いてください。種類によって日数は変わります。

材料 ●石灰または苦土石灰(1㎡につき500g) ●腐葉土または堆肥(1㎡につき2~3kg)



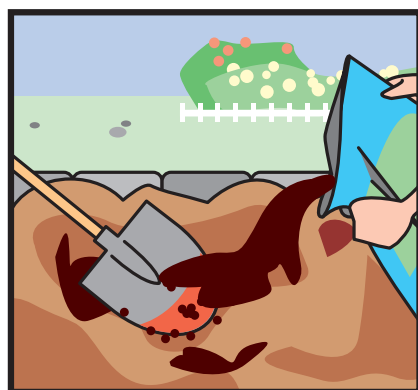
1

スコップを使って深さ30cmくらいまでひたすら掘り返す。



2

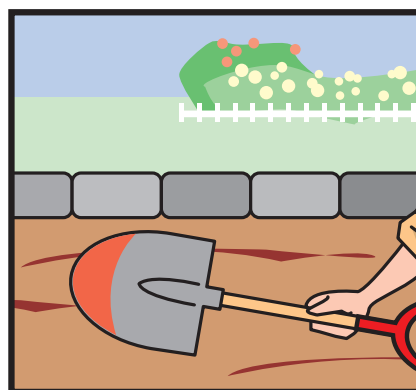
古い根や小石を手で取り除く。さらに粗い目のふるいをかけるとなお良い。



3

耕した土の全面に石灰をまき、さらに腐葉土(または堆肥)を入れてよく混ぜる。

※石灰等はまいてから日を置いてください。石灰の種類によって日数は変わります。



4

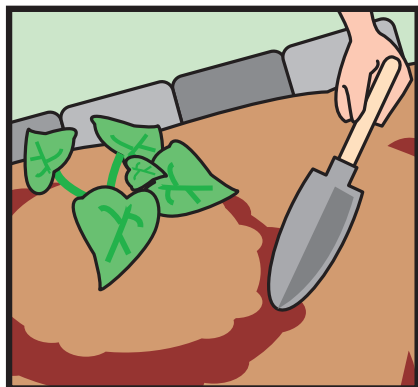
スコップの背で全面を平らにし完了。

●植物が植えられたままの場合(宿根草の花壇など)

植物を植えたまま、そのまわりに穴を掘り、改良用の土を混ぜ込みます。改良用の土は、腐葉土と石灰、市販の「土の再生材」をあらかじめ混ぜ

て準備しておきます。「土の再生材」を利用すると、古い土の再生に必要な養分などを手軽に補うことができます。

材料 ●スコップ ●改良資材 (腐葉土1ℓにつき石灰3g・再生材を一握り)



1

葉が広がっている真下を境に、その外側を深さ15cmくらい掘り起こす。



2

準備した腐葉土と石灰、市販の土の再生材を混ぜ合わせたものを溝に入れ、土とよく混ぜ合わせる

※石灰等はまいてから日を置いてください。石灰の種類によって日数は変わります。

●土の再生材



配合されているもの

石灰分や有機質などの堆肥、水はけを良くするための素材などが配合されています。

使い方

古い土に混ぜ込んで使います。元の土に対して1割程度の量を使用します。元気がない植物の鉢土の上にのせるだけで効果があるものもあります。

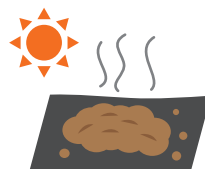
●土壌改良材

石灰は酸性土壌を中和するために用います。苦土石灰は、マグネシウムを3.5%以上含んでいるのでマグネシウムも補給できます。有機石灰はより効果が穏やかで使いやすいでしょう。

ベランダ園芸でも土を再生

プランターや鉢などに使用している土も、植え替えるたびに捨ててはもったいない!リサイクルして十分使えます。プランターや鉢に入っている土は、あらかじめ半乾きの状態にしておきます。ビニール袋の上などに土をそのまま出したら、ゴミ・枯葉・枯れた根を取り除きます。大きなものは手で取り、細かい根などは目の粗いふるいを使って取り除きます。この土を黒いビニール袋に入れて、よく晴れた日を選び日光にさらし、消毒します。(夏:そのまま2日間くらい放置。冬:夜は冷えこまない場所へ移動する。)袋の上からさわってみて土が熱くなっていれば大丈夫。土を湿らせて蒸し焼きの状態にすると効果アップです。コンクリートの上ならコンクリートが熱を吸収して、下からも熱が土に伝わるので、より効率よく消毒ができます。

この消毒が済んだ土に、新しい土を混ぜて柔らかいふかふかの土に復活させましょう。割合は古い土7:新しい土3くらいの割合が良いようです。



※緑の文字は、アヤハディオで取り扱っている商品です。

※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。[禁複製]



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ 会員募集中!



アヤカ
ポイントも
貯まる!

Point
ポイント
カード
機能

クーポン

最新チラシ

店舗検索

アヤハディオ
ネットショッピング

アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

